

3月19日

4回目の一般質問一問一答+まとめ

リニア問題-1

- 質問** リニア新幹線建設工事に関して、
村のリニア対策委員会の運営、工事説明会について
- 答** ① 事前資料の配布 ② 表決の方法 ③ 村民の発言しやすさ
① できる限り対応する。② 拍手は異論がないことの確認であり表決ではない。③ 地元説明会では意見が出た。④ コロナ対策で3月中の説明会は延期

質問: リニア対策委員会の場で多様な発言が可能となるよう、あらかじめ対策委員各位に資料を配布することを12月の一般質問で提案した。その後の取り組みは？

総務課長: JR東海の担当と調整し、1/23のリニア対策委員会では、戸中の発生土置き場関係の地区説明会が終了したため、その際（昨年9月）で使用した資料と同じ内容のものを事前に対策委員の皆さんに送付し、ご参加いただいた。今後、JR東海、対応可能な会議資料について、JR東海、中部電力と調整してできるだけ事前に配布できるようにしたい。

質問: 1/23の委員会では戸中残土置き場の造成に伴う林地開発許可申請を、委員会として拍手で賛同を表明したと聞く。村のリニア対策委員会は村民の意思決定機関ととらえられるのか。拍手をされた人数をどのように確認し、賛成多数としたのか。

総務課長: 村のリニア対策委員会は村内各地区の代表の方や各種団体の代表で構成され、村民の皆様の意思を反映し、様々な協議や審議して頂いていると認識。戸中発生土置き場の造成工事に伴う関係地区の説明会が終了し、発生土置き場の造成に係る林地開発許可申請をJR東海が県に提出して行政手続きを進めることについて、反対意見、賛成意見が特段無かったため、委員長としては進めることに問題なしと判断し、異議が無いか確認するために委員の皆さんに拍手を求めて再確認した。

（以前）本山発生土置き場の保安林解除申請の時に、村として同意してよいか採決を採った場面もあったが、1/23は委員長として（拍手で）採決を採ったわけではない。

質問：リニア対策委員会のメンバーには女性が一人で、偏りがある。発言が無かったので異議がないことの確認で拍手を求めたという事。工事説明会であれば地元の人が話しやすく、いろいろな不安や要望が出やすいと思う。コロナウィルスの影響で田村地区や佐原地区での説明会が延期されていると聞くと、今後の予定は？

総務課長：戸中非常口からの掘削の工事について地区への工事説明会が 2/19 から行われている。説明会では、トンネル掘削工事、ヤード整備工事、戸中発生土置き場の造成工事に関する工事手順、環境保全計画などが説明された。参加者からの意見は、工事用車両の運行ルートに対する改良計画や安全対策、工事車両運転手への交通安全協教育の徹底、などについて質問や意見など。新型コロナウイルスの対策のため、佐原地区と田村地区の工事説明会は、地元とJR東海が開催に向けて現在調整中。3月中の予定はない。

要 望

前回の全員協議会でJRが（工事説明会の）延期する以前に、有線を使ったテレビ放送で説明会をさせてほしいという申し出に対して、総務課長が肯定的な発言があったことを問題と感じていた。一方向の説明会は説明会にはならない。

従来通り調整して4月以降に行われるという事、安堵した。

JR東海も、村も村民の意見が出やすい地元説明会に対して、環境を整える、そういう姿勢を見せて頂きたい。

感じること

総務課長の発言の中にあつた

『本山発生土置き場の保安林解除申請の時に、村として同意してよいか**採決を採った場面**もあったが、1/23は委員長として**（拍手で）採決を採ったわけではない。**』

質問通告書の主旨では、リニア対策委員会が村民の意思決定の場であるかを確認したかったが、上記のように、曖昧な回答だった。更なる確認の質問を重ねるべきだったが、『拍手』は採決の手段ではなかったという発言に対する詰めが無かったことを今更反省しています。

議会での採決で『拍手』はあり得ないこと。村のリニア対策委員会という村から委嘱された委員で構成されている委員会の表決方法が委員長に委ねられ、意思の確認であったとしても、この『拍手』の多寡という、地区の総会などでも多用される方法で、個人の意思を反映できるのだろうか。

リニア問題-2

質問 トンネル掘削による水源の涸渇について

答 福島地区と協議調整中。

質問：トンネル掘削による水源の涸渇について

トンネルが真下を通る福島地区は昔から水源確保に苦勞をしてきたと聞く。それだけに『水涸れ対策をしてから掘削工事にはいること』を再三地元の役員が求めてきた。工事業者から示されている具体策があれば伺いたい。

総務課長：福島地区の農業用などの水源確保は村としても重要な課題と考えている。JR東海は、トンネル掘削による影響が生じる前段で対策を講じる意向。福島地区にリニア対策委員会が設置されており、JR東海、飛島建設JVを交えて現在トンネル工事における水源涸渇に関係する具体的な対策工事の方法を協議調整している。具体的な工事内容の対策をお示しするのはもう少し先になる。

質問 村として水涸れに対する協定書を取り組む必要についての考えは？

答 協定書の締結の是非を含めて今後協議する。

質問：平成25年8月29日 村内有志29名で笛吹市のリニア新幹線先行区間の工事現場を視察し、工事中の対応について詳しい説明を受けた。想定外の地点で水涸れが起きた話は印象に残る。福島区の役員と、飛島建設が対策の方法を協議しているという事だが、村はJR東海と、工事のダンプの運行などについては協定書を結んでいると思うが、水涸れに対する協定書を取り組む必要があるのではないかと考える。考えを聞きたい。

総務課長：福島区の協議の状況を踏まえながら、今後JR東海と協議や調整をしていく予定。協定書を締結するかしないかも、これからの検討になる。

JR東海と関係する皆様と協議しながら適切な対応に努めていかなければならないと考えている。

質問 先行区間で起こっている事例についての研究は？

答 JR東海に対して、今のような事例を繋ぎ、心配なことが起こらないように努めさせる。

質問と要望： 既にH28年にJR東海が公表している水収支の解析では虻川で完成後の流量が渇水期19%減、壬生沢川では11%減水するという数字を出している。『実際にはその場にあった対策を行うので減少幅は軽減される』とJRは付言している。

H11年、笛吹市の一級河川の天川が感染に渇水。その他、トンネルを掘削した路線より標高の高い水源はほぼ100%涸れたという。また、路線と関係しないとされていた想定外の減渇水も2件あり、市内で4地区、10ヵ所で減水又は渇水が発生したと聞く。笛吹市では、鉄道運輸建設機構と結んだ協定に、「市内のどこかで急に減渇水が生じた際はその日中に何らかの形で対応し復旧する、復旧できる計画をつくること」を盛り込んだ。

しかし、水涸れは予期せぬ箇所で急に起こった。即日復旧対応する約束不履行で、市は掘削工事を止めることを指示。どこの地区でも万が一水涸れしてもその日に水を出せる体制を作ってから工事を再開するよう指示した。

工事業者は、ボーリングで地下水を掘り当て、水質を検査し、水涸れが生じた箇所へ給水できる体制にして工事を再開。また、このような応急措置の水源確保から恒久的な措置完了までに2年を要した。ただ、この天川の恒久措置では、トンネルの湧水を汲み上げて放流する補償の期限は30年間、2039年で終了する。鉄道運輸建設機構も、笛吹市のケースについて、「水脈の存在を予測できなかった」と認めている。

このように『予測できないことが起こるという事』を工事が始まる豊丘村でも考える必要がある。トンネル工事によって影響を受ける地区は福島地区だけとは言い切れないのではないかと。村は、地区の前面に立って住民生活を第一に工事業者に毅然として渇水問題に取り組んでいただきたい。

問題が起こってからではなく、既に先行区間で起こっている事例について、研究することも大切だと思うが、いかが？

総務課長： 当村でもトンネルの掘削工事による心配な点が数々思い浮かぶと思われる。JR東海でもそういうことが起こらないように心がけながら対応すると聞いているが、今のような事例もある事を繋ぎ、心配なことが起こらないように努めさせる。応急対応の措置の準備等々も検討するように伝え、村としても一緒に協議をしていかななくてはならないと考えている。

村長：福島地区と JR 東海工事関係者との協議について

非常に湧水が多いという中から、必ず工事を始める前にそれなりの手配というか、涸れる時の手配を先にしますという話を確か公式の場で聞いております。ですから、その詰めを多分やっているのだろうな、と私は思っているという事。しっかりと文書にする中で対応していきたいと思っている。

参考意見

大月市朝日区では、1994年の工事で水源が涸れ、JRの補償は当時井戸を掘り、高低差数百メートルの揚水ポンプを設置して、その稼働にかかる20年分の電気代=1000万円を地元を支払った。電気代は6万円/月。ポンプは5年で故障。住民は補償金があるうちに、標高の高い所に自力で井戸を掘り、新しいポンプとタンクを設置し、満水時に電源がオフになる設計にして、電気代は¥500/月で20年過ぎた今も水源として利用している。今、福島地区で地元が納得できる工法で、地元の方が使いやすい補償を求めること。

それを協定書など、文書で明示していくことが行政としては必要ではないかと私は考える。



涸渇した河川の代替水源は・・・？ 笛吹市 天川の恒久対策工事
一級河川が『一級三面コンクリート張水路』に

水路の上を横切るリニア新幹線先行区間 ここでは護岸の高木で見え隠れするが、遠景の中央道からは一直線(リニア)の線形が自然の景観の中で異様に際立って見える。

中央道や在来の新幹線だって、こんなに『リニア(点と点をつなぐ直線)』ではない。

森羅万象自然界の造形物はノンリニア(直線では表せない)。その一方で点と点を結ぶ直線をリニアという。リニアは人間が物事を単純化し、一つの法則を求めるためのモデル化に大いに寄与した。そのモデルをスタンダードとして世の中の物事を改変してきたことの弊害が現出しているという。

質問 要本山残土置き場計画について、住民の要望書を村長が受理されたことについて、署名をされた方々への村長の思いをお聞きしたい。

答 正式な署名ではない。

不安や疑問があれば、JR東海へ直接連絡していただきたい。

リニア対策室にお問い合わせいただければ、個別に対応する。

場合に依ったら今**計画されている所以外にも発生土を使った公共工事**などがあるかもしれない。

質問： 本山残土置き場計画について広範な情報公開と、計画に対する住民の不安や疑問に真摯に向き合う事を求める要望書を村長が受理されたことについて、署名をされた方々への村長の思いをお聞きしたい。

村長： 387名の署名を頂きました。

実は、この387名の署名を私もチェックしてみたが、一人の筆跡で家族中書いてある方もたくさんあり、これは小園の時の署名活動の時も全く同じだった。そういう意味で、有効な票数にすれば半分くらいと思っている。

正式な要望書の署名ではないと、一言申し上げながら、しかし、その半分の方は、非常に心配されている。と感じている。

こういう不安や疑問があれば、JR東海へ直接連絡してもらるか、長野工事事務所の電話番号も書いてある。不明であれば村のリニア対策室に**問い合わせ**いただければ、しっかりと個別に対応させていただきたく。

引き続き、ご心配される皆様が可能な限り、少なくなるような丁寧な取り組みに努めていきたいという事を宜しく願いしたい。

2週間ほど前に、リニアの残土置き場として福島区でてっぺん公園の駐車場の説明会があった。しっかりとした設計図で説明し、地元の皆様方も受け入れて頂いたと思う。

これから、場合に依ったら**今計画されている所以外にも発生土を使った公共工事**などがあるかもしれない。本山につきましてはJRから、公共事業の利用については、こちらが要望しているものの差はある。特に、本山更生会については、既にリニア対策委員会で発言した通り、文書としてしっかりと残していきたいと思っているので、宜しく願いしたい。

意見：要望書の形式について。残土問題は今の世代ではなく、将来の世代にこそふりかかると、自分の子供たちの名前を署名したお母さんもいる。そういう思いを、387名中、有効が半分でも、村長が心の片隅にでも置いてくださるといふ事は心強いかと思います。

また心配があれば直接JRに、ということだが、幸い昨年9月の定例会で発言した内容をJR東海につなげて頂き、半年を経て、先週、12日にJR東海の部長、所長、担当の方の4名と質疑を村内の技術者の方とさせて頂いた。要旨は以下の通り。

設計指針を超える盛土の高さについて：「盛土高さは15mを超える場合は**盛土の安定性を確認すること**」の記載を根拠に盛土高さを50mとした。

盛土の安定性は地下水位が上がらないことが前提で、それを担うのが主に地下の排水管だが、最大50mの盛土のため経年劣化や目詰まりが起こる。しかし、更新することができないため、排水管の管理が重要。

排水管の管理は、仮設の時に使う縦排水管を使う。50mの縦排水管にカメラをぶら下げて地下排水管の状況を確認するが、排水はできない。詰まった管の清掃もできないと、JRが認めた。**(状態を確認しても改善策を講じる手立てが用意されていない)** 平永所長は『**これほどの大きな盛土は管理している実態もない**。造成工事の中で降雨後の盛土内の水位を監視し、データと適切な管理で経験値を積み上げて管理基準を作っていく』という、やってみないとわからないとした。

村長が先日の信濃毎日新聞の紙上で**JRが安全管理をすれば安全を担保できると認識している**というが、この安全管理の方法が、まだ、**やってみないとわからない状況**にあるから、私は心配し続けている。

リニア新幹線の開通を前提にした村づくり、観光振興と移住定住に力を入れることは明るい未来を夢見る仕事で、物事は楽観的に考えるべきとする村長の得意とされる分野で、人口減少時代の村の施策の大きな柱でもある。

と同時に、**2027年を意識し、急いで、安く、工事を進める**ことで将来の**村の負の遺産としない、慎重な対処**が村長に求められている。

飯田市のリニア長野駅建設予定地の用地交渉も1年遅れている。豊丘村内では平成28年5月に公表した工程表から、坂島トンネルヤード工事が2年、戸中壬生沢工区が3年遅れとなっている。予定は予定であり、**何年遅れようと、安全の担保が最優先されるべき**ことは村長も承知されていること。

現実の状況を見据え、更に広い歴史の視野に立つ時、それは、**リニアがあってもなくても、ここで暮らす人々が、健康で心豊かな暮らしを支える施策を期待したい**。それは、今回署名された方々の思いでもある。